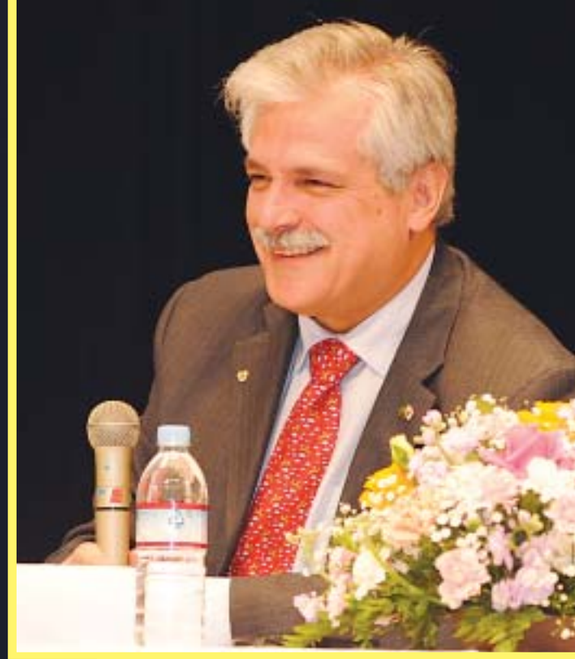
教育や生活支援を進め、外国人を受け入れられる社会へ！

特集 SOJA BRAZILIAN DAY

カストロ・ネーベス駐日ブラジル大使の来総を記念したフォーラムが3月27日、市民会館で開かれ、約900人の参加者は、8人のパネラーの発言などから地域社会での日本人と在日ブラジル人の共生の道について考えました。



カストロ・ネーベス 駐日ブラジル大使

人と人のきずなは、国と国の関係を保つ重要な要素である。そして、人を育て、生産性の向上、民主的な制度の強化の面で教育は重要である。

今後も、大使館、総領事館、政府、地方自治体が手を携えて在日ブラジル人を支援したい。日本は地理的には遠いが心情では近い国だと思う。在日ブラジル人の皆さんもがんばってほしい。

国際移住機関（IOM） 中山 暁雄 駐日代表

コーディネート

浜松や総社ではまちぐるみで多文化共生を進めている。このフォーラムでは、外国人との違いを認め合いながら、まちづくりをどのように進めていったらよいか、第一線で活躍されている皆さんから意見をいただき考えていきたい。

在名古屋ブラジル総領事館 リカルド・ドゥルモン・デ・メロ総領事

在日ブラジル人への言葉の教育はたいへん大切である。権利や社会の仕組みなどを知るためにも言葉は重要だ。その意味で、子どもだけでなく、子どもの将来のことを考え、大人も家族を養うことと同等に、言葉を身に付けてほしい。

在アラブ・エジプト共和国駐箚特命全権大使 石川 薫 大使

私自身の経験からだが、寛容と相互受け入れの社会が必要だと思う。日本の社会も、他人に関して無関心であるのではなく、温かさのあるコミュニティのあり方を考えなければならないと思う。外国人への教育もその延長にあると考える。

問題提起

片岡 聡一 総社市長

総社市では、子どもたちへの日本語指導などを行う「虹の架け橋教室」の開設や、相談体制の整備などに取り組んでいる。外国人が日本人と対等な立場で暮らしていくうえで、大きな柱である教育と生活支援について皆さんと考えたい。

鈴木 康友 浜松市長

日本に住む外国人は、教育や保険など日本人と同じ課題を抱える。外国人の受け入れの国の基本方針の明確化や、外国人の子どもへの教育の義務化などが重要な課題であると思う。国とあわせ技で多文化共生社会をきちんとつくっていきたい。

中川 正春 文部科学副大臣

日本が国を開いていくことは必然的な流れだと思う。多文化共生の具体的な流れを作っていくことが必要だろう。お互いに高め合い、日本人と外国人はお互いに刺激しあい、新しい時代を築いていく実感が得られる実績ができればと思う。

内閣府 岡田 太造 内閣府官房審議官

日本の経済活動の流れから、これからの時代は外国との関わりのなかで生きていく社会であり、外国人を日本社会としてどう受け入れるか真剣に考える時期が来た。その観点からも、日本全体で多文化共生は重要な取り組みであると思う。

アムダグループ 菅波 茂 代表

多文化共生を進め、ブラジル人に幸せになってもらうことは、将来、総社の心とブラジルの心をつないでくれる存在になってくれ、財産になるものと思う。そして、大使に国際名誉顧問を受けてもらった意義は大きいと考える。